

集会アピール

本日わたしたちは、東京・みらい座池袋（豊島公会堂）において「許すな！『解雇自由化』日本IBMのロックアウト解雇に反対する10・16大集会」を開催した。集会には、人を超える仲間が参加し、安倍内閣が推進する「解雇自由化」や「残業代ゼロ法」「正社員ゼロ法」など労働法制大改悪を阻止するとともに、その先鞭をつける日本IBMのロックアウト解雇に反対するとともに、それとたたかうJMIU日本IBM支部を激励し、解雇された仲間をかならず職場に戻すために全力をあげる決意を固めた。

日本IBMの「ロックアウト解雇」とは、突然、上司が労働者を別室に呼び出して解雇通告を読み上げ、ただちに社外に追い出すという極めて乱暴な解雇である。具体的な理由をいっさい示さないばかりか、労働組合との事前協議も拒否している。さらに、成果主義で低く評価された人、長時間過重労働やパワハラによってメンタル不全となった人などの賃金を毎年15%も減額している。

ロックアウト解雇によって、2012年7月以降、JMIU日本IBM支部組合員だけでも30人が職場から追い出された。そのなかには、労働組合活動の先頭に立ってきた役員が数多く含まれ、組合活動に重大な支障が生じている。しかも、職場単位でみると、JMIU組合員が集中的に狙われている。

JMIUは、日本IBMにおける唯一の労働組合として、常に職場での雇用と権利をまもるたたかひの先頭に立って奮闘してきた。世界中でIBMが行っているリストラによる利益の極大化を図るためのたたかう労働組合の団結破壊と排除こそ、ロックアウト解雇の目的であることは明らかである。

JMIU日本IBM支部は、11人の組合員が解雇無効を求めた裁判や労働委員会闘争などロックアウト解雇をはじめとする会社の攻撃とのたたかひに全力をあげている。こうしたもと、マスコミも日本IBMを「国内最大のブラック企業」と呼び、この事件に注目し始めている。

安倍政権のすすめる労働法制大改悪の中心のひとつが「解雇の自由化」である。これまでも日本IBMは、他社に先んじて新しい手法のリストラを編み出し実行してきた。ロックアウト解雇も安倍政権がたくらむ「解雇の自由化」そのものであり、この暴挙を阻止しなければ、日本国中に解雇の嵐が吹き荒れることになる。

「日本IBM解雇撤回闘争支援全国連絡会」は、全国のはたらく仲間、消費税増税、TPP参加、集团的自衛権行使容認、原発再稼働など安倍暴走政治に反対する広範な労働者・国民と共同し、「解雇自由化」をはじめとする労働法制大改悪を阻止するとともに、日本IBMのロックアウト解雇に反対し、仲間を職場に戻すために全力をあげることを心より呼びかける。

2014年10月16日

許すな！『解雇自由化』日本IBMのロックアウト解雇に反対する10・16大集会